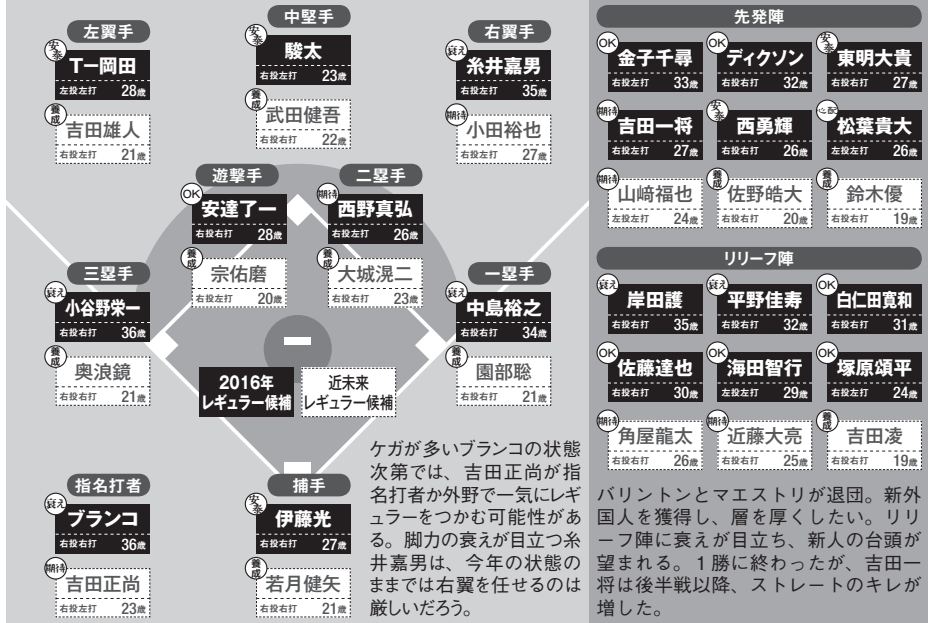


# 12球団ドラフト採点

## 2016年予想布陣と近未来レギュラー候補



※年齢はすべて2016年の満年齢

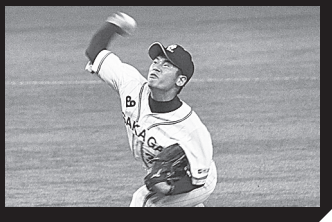
ケガが多いブランコの状態で、吉田正尚が指名打者か外野で一気にレギュラーをつかむ可能性がある。脚力の衰えが目立つ糸井嘉男は、今年の状態のままでは右翼を任せるのは厳しいだろう。

バリントンとマエストリが退団。新外国人を獲得し、層を厚くしたい。リリーフ陣に衰えが目立ち、新人の頭角が望まれる。1勝に終わったが、吉田一将は後半戦以降、ストレートのキレが増した。

### 会心の指名 近藤大亮

(パナソニック)

昨年の安定感からは考えられないほど崩壊したリリーフ陣。昨年は2.49だったリリーフ陣の防御率が今年は3.85まで悪化した。負け数も昨季の17敗から今季は44敗に激増。接戦をことごとく落とした。そんなリリーフ陣を救えるのが近藤大亮。スピードガンでは140キロ中盤でも体感150キロ以上にも見えるストレートが武器。打者からすれば、「くるとわかっていても差し込まれてしまう。ちょっとムラがあるところや、変化球(フォーク、スライダー)の制球があまりよくないところは気になるが、球の勢いだけでも十分戦力となる。1年目からセットアッパーを任せられるが、状況次第ではクローザーに抜擢してもいいだろう。新人王の有力候補のひとつだ。



### 将来有望

3位の大城滉二(立教大)は、即戦力の声もあるが、体力的に1年目は厳しいかもしれない。遊撃手には安達了一がいることもあり、焦らずまずは体力作りから始めたほうがいいだろう。打撃は、感性で打つ天才型だ。

4位の青山大紀(トヨタ自動車)は、智辯学園高時代に甲子園で脚光を浴びた。社会人では投手に専念し、今年になってから急成長。まだまだ成長の余地もある。

5位の吉田凌(東海大相模高)はスライダー、6位の佐藤世那(仙台育英高)はフォークとプロで勝負できる決め球を持っているのが

強みだ。吉田は今年になって、よくいえばまとまりが出てきた。佐藤とともに、ストレートを磨くことで、決め球をより生かしてほしい。

8位の角屋龍太(ジェイブロンジエクト)はストレートに魅力を感じるが、それを何球も続けて投げられるかどうか。状態がいいときは素晴らしい。将来像として佐藤達也が浮かぶ。

9位の赤間謙(鷺宮製作所)は、145キロ前後の速球とカットボール、チェンジアップが武器。

10位の杉本裕太郎(JR西日本)は遠くに飛ばせる右の長距離砲。ツポにはまったときの飛距離は圧巻だ。大型ながら脚力もある。